

メタリ(本年一月乃至九月分輸出總量一萬九千噸對日

輸出一萬五千噸六萬五千磅)

三年百五萬磅ナリ)

東阿產品ノ購買國トシテ東阿ノ產業及貿易ニ日本ガ寄與スル所大ナレバ右ニ依ツテ明瞭ナルノミナラズ此傾向ハ今後モ持続スヘキモノナリ

四、日本ノ東阿產品購買ガ右ノ如ク躍進セルニ拘ハラズ一九三三年ノ我對東阿輸出ハ前年ニ比シ僅ニ二割五分ヲ増加セルニ過ギズ斯クテ茲ニ貿易ノ平衡ヲ招徠セリ(東阿統計ニ依レバ日本品輸入額ハ一九三二年八十四萬磅一九三

#### \*事項編注

大藏省財政史室所蔵史料より補填・採録した文書の移牒番号(移牒第〇〇〇號)は、外務省が送付した電報写に大藏省側が付したものである。

### 3 オーストラリア副首相来日関係

オーストラリア副首相来日報道に対する同副  
首相來信について

426 昭和9年1月6日 在シドニー村井總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

(付記) 本省 昭和8年12月16日後7時10分發

第五〇號

濠洲聯邦「レイサム」外相ハ公使館設置ノ爲(或ハ通商條約及日濠貿易ニ付談合ノ爲トモ云フ)明年二月來朝ノ筈ニテ右ニ付「ライオンズ」首相ハ本邦政府ヨリ招請ナキ爲確言出來サル旨ヲ語レル趣新聞電報アリタルカ右眞偽御取調回電アリタシ

英ニ轉電アリ度シ

第一號

客年貴電第五〇號ニ關シ

「レイサム」卿ノ來信ニ依レバ「本件東洋諸國訪問ニ關ス

ル新聞記事ハ政府ノ迷惑トル所ニテ目下英國外務省ヲ通

シ相手國ノ意向ヲ探リツツアル次第ナリ假令本件親善使節日本ニ赴クトスルモ通商條約或ハ公使交換等ノ交渉ハ全然

其ノ權限外ニアリ前者ハ關稅大臣ト貴官トノ間ニ依然進捗

427 昭和9年1月9日 在シドニー村井總領事宛(電報)

在本邦英國大使へのオーストラリア副首相來

日に対する我が方歓迎の意表明について

付記一 作成日不明、通商局第一課作成

〔濠洲聯邦ヨリノ親善使節來訪ニ對スル件〕

## 二 作成日、作成局課不明

「『レイサム』來朝ノ際日濠政治關係ニ付先方  
ニ説示スヘキ事項」

### 三 起案日不明、歐米局第一課起案高裁案

「濠洲聯邦親善使節『レイサム』外相一行ノ  
來朝ニ對スル待遇振ニ關スル件」

「濠洲聯邦親善使節『レイサム』外相一行ノ  
來朝ニ對スル待遇振ニ關スル件」

本省 1月9日後3時20分発

第一號

貴電第一號ニ關シ

在本邦英國大使ヨリ一月二日附書翰ヲ以テ濠洲政府ニ於テ  
ハ「レイサム」ヲ親善使節トシテ近ク本邦ヲ訪問セシメ度  
希望アル旨本國政府ヨリ電報ニ接シタル趣ヲ以テ右ニ對ス  
ル我方ノ意嚮問合來リタルニ付九日同大使ニ對シ帝國政府  
ハ同氏ノ來朝ヲ歡迎シ出來得ル限りノ待遇ト便宜ヲ供與ス  
ヘキ旨回答シ置ケリ  
英へ轉電セリ

（付記一）

濠洲聯邦ヨリノ親善使節來訪ニ對スル件

今回濠洲聯邦副總理兼外務大臣「レイサム」氏親善使節ト  
シテ訪日ノ趣ニ付此機會ニ於テ日濠間ニ懸案中ノ通商關係  
諸問題ニ付大體左ノ趣旨ニ依リ適宜談合スルコト致シタ  
シ

### 一、通商條約問題

(1) 本邦ト濠洲トノ間ニハ通商條約存在セサル處帝國政府  
ハ兩國間ノ通商貿易増進ノ爲昭和七年四月濠洲政府ニ  
對シ日濠通商暫定取極ニ關スル我方案文（大體本邦新  
西蘭間ノ暫定取極ニ倣ヒタルモ對濠本邦輸出重要品數  
品ニ對シ協定税率設定方ヲ要求セリ）ヲ提出シタルニ  
對シ同年六月先方ハ右我方提案ニ付仔細研究中ナルモ  
「オタワ」經濟會議其他緊急事項ノ爲研究遲延シ居ル  
旨回答シ來リ次テ本件當面ノ責任者タル關稅大臣同年  
九月中ニ「オタワ」ヨリ歸濠ノ豫定ナルニ付其ノ上可  
成速ニ本件討議ヲ進捗セシムヘキ旨約スル所アリ超エ  
テ昭和八年五月同國政府當局ハ帝國總領事ニ對シ同年  
九月頃ヨリ本件交渉ニ入り得ヘキコトヲ述ヘタルモ今  
日迄未ダ具體的ニ開談ノ運ニ立至ラス

(2) 就テハ「レイサム」來朝ノ機會ニ於テ本件商議促進方

申入ルルト共ニ出來得レハ大體ノ骨子タケニテモ話合  
ヲ付ケ置クコトト致シタシ

### 三、本邦輸出品ニ對スル濠洲關稅問題

(1) 濠洲政府ハ昭和四年勞勵黨内閣成立以來現在ニ至ル迄  
同國關稅ヲ數次ニ亘リ改正シ其ノ輸入稅率ヲ累次引上  
ゲ本邦ヨリ同國ヘノ輸出品ノ相當部分ニ對シ或場合ニ  
ハ輸入禁止ニモ等シキ高率關稅ヲ賦課シ之ト同時ニ英  
國品ニ對スル特惠ヲ增大セル爲本邦品ニ對濠輸出ハ極  
度ニ阻止セラレ居ルニ反シ濠洲ヨリ本邦ヘノ主要輸入  
品タル羊毛ヲ始メ其ノ他ノ農畜產品ハ我關稅制度上大  
體無稅又ハ低率ノ適用ヲ受クルタメ之等商品ノ本邦市  
場ヘノ進出容易ナル結果兩國間ノ貿易尻ハ毎年本邦側  
ニ對シ莫大ナル入超ヲ示セリ（別添「日濠貿易統計」  
參照）例ヘハ

（單位百萬圓）

昭和七年 昭和八年

日本ヨリノ輸出

三七

五一

日本ヘノ輸入

三四

二〇四

（欄外記入）

ニシテ其ノ輸出額ト輸入額トノ比ハ約一對四ナリ  
然ルニ近時世界一般ノ趨勢トシテ各國ハ其ノ對外輸出  
入貿易額ノ均衡ヲ維持セントスルノ方策ヲ講ジ居リ現  
ニ我國ニ對シ求償ヲ申入レ來ルモノ漸ク多キヲ加へ來  
レル此際本邦トシテモ片爲替調節ノ爲輸入超過國ニ對  
シ夫々處置スルノ要アル處本邦對濠貿易ガ常ニ本邦ニ  
トリ多大ノ輸入超過ヲ示シ居ルニ鑑ミ本件ハ大体左ノ  
通り措置スルコトト致度シ

(2) 濠洲側ニ對シ相當額ノ本邦品購入約束方要求スルコ  
ト

(2) 若シ濠洲ガ依然我對濠輸出品ニ對シ高率關稅ヲ賦課  
シ爲ニ現存ノ貿易不均衡狀態今後モ繼續スルニ於テ  
ハ本邦側ニ於テモ之ガ對應手段トシテ曩ニ帝國議會  
ヲ通過シ近ク實施セラルベキ通商擁護法ノ運用ニ依  
リ濠洲ヨリノ輸入品ニ對シ關稅引上又ハ制限的措置  
ヲ採ルコトモ可能ナルベキニ付濠洲側ガ前記事情ニ  
スルコト（緩和ヲ要求スヘキ品目ハ檣材、綿糸、綿  
鑑ミ速力ニ高率關稅緩和ノ措置ニ出デンコトヲ希望

## 三、濠洲爲替補償附加稅ノ本邦品ニ對スル適用方阻止

濠洲ハ現在本邦商品ニ對シ爲替補償附加稅ヲ課シ居ラサルモ同國關稅審議會ハ本邦產品(牡蠣罐詰、護謨底上靴、護謨長靴、木綿タオル及「タオル」地、電球、男子用「ヅボン」吊、同靴下止、蠟製色鉛筆、陶器土瓶、同「ジョッキ」、磁瑠製容器等)ニ付審査ヲ行ヒツツアルノミナラス爲替補償附加稅設定法制定アリタル次第第二鑑ミ

濠洲側カ我對濠輸出品ニ對シ右爲替補償附加稅ヲ課スルニ於テハ左ナキタニ現在ノ禁止的高率關稅竝ニ英帝國特惠ニ依リ阻止セラレツツアル本邦商品ノ同國輸入ハ愈々困難トナルヘキハ明カナルヲ以テ本件本邦品ニ對スル爲替補償附加稅適用ニ付テハ極力阻止スルノ要アリ帝國政府ハ屢々在「シドニー」帝國總領事ヲ通シ前記ノ諸點ニ付濠洲政府當局ノ慎重ナル考慮ヲ促ス所アリタルモ此機會ニ於テ更ニ右適用差控方申入置クコトト致度シ

四、濠洲各港ニ於ケル港費、荷役費及其ノ他ノ船舶關係諸費用問題

濠洲側ニ於ケル港費、荷役費ガ本邦側ノ夫ニ比シ著シク高率ナルコトハ關係船舶業者ノ最モ苦痛トスル所ナルヲ

設カ兩國間ノ通商貿易發展ニ資スヘキハ言ヲ俟タサル所ナルヲ以テ之カ速急實現ニ付テモ此際濠洲政府當局ノ特別ナル考慮ヲ求ムルコトト致度シ

## 六、本邦人ノ濠洲入國、滯在及居住手續ノ改善

本邦移民ノ濠洲入國ハ所謂書取試験ノ運用ニ依リ一九〇一年以來阻止セラルモノ商人、學生及旅行者ハ明治三十七年四月十六日附日濠間申合セニ依リ規律セラレ右書取試験ヲ免除セラルモノナル處本件ニ付テハ大体左ノ通り處置致シ度シ

(一)現在本邦移民ニシテ濠洲へ入國ヲ許與セラレ居ルモノハ眞珠貝採取ノ海上労働者ノミニ限ラレ、農業者ノ如キ陸上労働者ノ入國ハ阻止セラレ居ル處濠洲政府ニ於テハ今後本邦移民ノ入國ヲ緩和シ右本邦農業者入國ノ途ヲ拓ク様措置スルコト

(二)濠洲ニ入國セル本邦人ガ十二ヶ月以上同國ニ滯在セント欲スル場合ハ豫定滯在期間ニ對スル免除證書ノ下附方ヲ願出ツル要アリ(右證書ハ毎年之ヲ更改スルコト

ニ改メシメタリ)然ルニ本件ノ適用アル本邦人ハ大部トナリ居タルモ數年前ヨリ三年毎ニ之ヲ更改スルコト

以テ之ガ輕減方ニ付濠洲政府ノ適當ナル措置ヲ望ムモノニシテ殊ニ濠洲領海航行中ニ消費シタル物品ニ對シテマデモ輸入稅ヲ課スル現行制度ハ關係船舶業者ニ益々多大ノ負擔ヲ加重スルモノニシテ前記港費、荷役費ト同様日濠貿易發展ノ障害タルベキヲ以テ之等諸稅ノ廢止乃至輕減ニ付テモ一併考慮方要求スルコトト致タシ

## 五、日濠間無線聯絡ノ開設問題

(1)日濠間通商貿易促進ノ爲昭和三年以來彼我間無線聯絡ノ議起リ日本無線電信會社ト「アマルガメーテツド、ワイヤレス」社トノ間ニ交渉開始セラレタルカ其ノ問帝國政府ニ於テモ在「シドニー」帝國總領事ヲ通シテ斡旋スル所アリ其ノ後我遞信省ト右「ア」社トノ間ニ本件無線電信協定案協定セラルノ運トナリ昭和六年九月之カ調印ヲ了セルモ濠洲政府側ニ於テ先方種々ノ事情ニヨリ之ニ認可ヲ附與セサル爲本件無線電話聯絡ハ未タ實現セラルニ至ラサル次第ナリ向昭和八年八月前記「ア」社ヨリ我遞信省ニ對シ無線電話聯絡開設方申出アリ目下彼我兩國間ニ於テ試驗中ノ趣ナリ

(2)日濠間有線電信料カ非常ニ高率ナル今日無線聯絡ノ開

(欄外記入)

要求スヘキ事ニ付テハ目下調査中

(付記二)

「レーサム」來朝ノ際日濠政治關係ニ付先方ニ説示

スヘキ事項

一、不侵略ノ明白ナル表示

濠洲、新西蘭等ニ於テハ我國カ侵略ノ意圖ヲ抱藏スルカ如キ誤解ヲ有シ日濠關係ノ將來ニツキテモ不安ヲ有シ居ルカ如キヲ以テ此際適當ノ機會ニ於テ我方ヨリ進ムテ之ヲ是正シ彼等ノ危惧ノ念ヲ除去スルコト肝要ナリ

濠洲等ニ於テハ我方カ侵略政策ヲ遂行スヘシトノ杞憂ヨリ不安ト猜疑ノ目ヲ以テ見ツツアリ。委任統治地域ノ近接ニ加フルニ茲兩三年來ノ世界政局ノ不安殊ニ極東政局ノ變改並倫敦條約改訂期ノ接近等ニ依リ一層我方ニ對シ脅威ヲ感シ居ルモノノ如シ

現ニ最近ノ例ニ見ルモ別紙(A)ノ通リニシテ斯ノ如ク疑心ヲ抱藏スルニ於テハ我方ノ同國トノ通商條約締結ノ機運ヲ阻害スル等經濟的發展ノ障害トモナルヘシ

依而此際我方ニ於テハ何レノ國ニ對シテモ何等事ヲ構ヘムトスルノ意圖ナキコトヲ明カニシ同方面ニ對シテハ從來ノ傳統的親善友好關係ヲ維持シ經濟關係ヲ愈々緊密ナラシメシ居ルモノノ如シ

濠洲ニ於テハ其極東ニ於ケル貿易ノ重要ナルニ鑑ミ通商代表ヲ極東ニ派駐セシムヘシトノ議アル趣(別紙(B)參照)ナル處極東ニ於ケル市場ノ趨勢經濟ノ動向ハ我國ヨリ觀察シテ始メテ正確ナル判斷ヲ爲シ得ルモノナルノミナラス濠洲ヨリノ輸入ニ付テハ我國ハ英本國以外ノ何レノ國ヲモ凌駕セル關係ヨリ見ルモ通商代表ヲ極東ニ派遣ストセハ我國ヲ最モ適當トスルモノナリ

尙濠洲側ニ於テ我邦ノ地位並輿論ヲ正觀スルト同時ニ濠洲政府ノ見解ヲ直接充分ニ我方ニ傳達シ且通商上ノミナラス更ニ廣汎ナル利益ヲ代表シ得ル機關ヲ我國ニ設置スル意向

アルニ於テハ濠洲ノ今日ノ國際上ノ地位並日濠間ノ關係ニ鑑ミ我方ハ欣然之ヲ歡迎スルト共ニ外交使節ヲ我方ヨリモ常駐セシムルコトニ取計フヘシ

三、軍縮問題

濠洲側ニ於テ進テ軍縮問題ニ言及スルカ如キ場合ニハ我方トシテハ來ルヘキ軍縮會議ニ於テ満足ナル協定成立ニ至ラムコトヲ衷心ヨリ冀望シ居ル次第ナルカ我國民全般ハ現在ノ比率ニハ満足シ居ラサル旨ヲ明ニスルト共ニ前記會議ニ對スル具体的方策ニ付テハ未タ何等決定シ居ラサル旨ヲ告クルコト可然

濠洲ハ其ノ地理的關係上軍備殊ニ海軍問題ニ付テハ常ニ深キ關心ヲ有シ居リ新嘉坡要塞問題等ニ關スル同國側ノ態度ニ付テ見ルモ之ヲ明白ニ視ヒ得ル所ナルカ最近國防上ノ施設ヲ改メツツアルヤノ報道モアリ且一九三五年軍縮會議モ間近ニ迫リ居ルニ付濠洲側ニ於テ自ラ進テ或ハ軍縮問題ニ言及シ來ルカ如キコトアルヘキ處其場合ニハ上記ノ趣旨ニ依リ應酬シ我方ノ軍縮達成ノ希望ヲ明カニスルト共ニ我國輿論ノ趣向ヲ印象セシムルコト然ルヘシ

ムコトノ熱心ナル希望ヲ有スル以外何等ノ意圖ナキ次第ヲ

二、外交使節交換

濠洲側ニ於テ其我國ニ對スル通商其他ノ利益ノ重大ナルニ顧ミ此際尠クトモ通商代表ヲ我國ニ派遣スルコト然ルヘク尙又先方ニ於テ外交使節ヲ我國ニ常駐セシムル意向

アルニ於テハ我方ハ之ヲ歡迎スルノミナラス我方ヨリモ濠洲ニ使節ヲ常駐セシムルノ用意アル旨ヲ告クルコト可然

四、一九三三年九月濠洲聯邦國防大臣「ビーアス」ハ「シド

報告)

(付記三)

ニー」ニテ國防計畫ヲ説明演説シ(イ)國防ハ政黨派ヲ超  
越シ一般ノ援助ヲ期待ス(ロ)海軍ハ單ニ外敵侵入防禦ヲ以  
テ充分トセス貿易線保護ハ更ニ緊要ニシテ強大ナル海軍  
力ヲ缺ク可ラス(ハ)沿岸防禦ノ強化陸軍ノ機械化義勇軍ノ  
完全ナル訓練等ノ外一九一八年以來中斷ノ新西蘭トノ陸  
軍ノ聯絡ヲ計リ(ニ)三年間實行後續延ヘノ空軍九年計畫ヲ  
實現シ(ホ)更ニ軍需品製造工場ヲ新設ス云々ト述ヘ一般ノ  
好感ヲ得タリ。(昭和八年九月二十九日附村井總領事報告  
)

五、オーストラリア聯邦内閣ハ過般ノシンガポール英帝國海  
軍會議ノ決定ニ基キ且ツ日本ノ對支政策聲明ヲ中心トス  
ル極東ノ新シキ緊張ニ對處スルタメオーストラリア北面  
ノ要港ダーウィン一帶ノ軍事的施設ニ巨費ヲ投シテ此ノ  
際大々的擴充ヲ圖ルコトトナリ既ニソノ具體的立案ニ對  
シ承認ヲ與ヘル用意カ出來テ居ル由テアル、右計畫ハ  
「ダーウィン要塞」ノ擴張整備

六、海軍根據地及ヒ空軍根據地トシテダーウィンニ新施設  
ヲナスコト

ノ二部分ニ分レ附隨的ニメルボルンニアル艦隊及ヒ軍用

ト廣汎ナ文化的方面ニアル、コノ方面ニ於テ日濠兩國ノ  
親善關係ヲ促進スルコトハ決シテ無意義ナ事テハナイト  
信スル勿論濠洲ハ日本トノ通商ヲ希望シテキルカ、ソレ  
ニモマシテ兩國ノ通商關係ノ如何ニ拘ラス變ルコトナキ  
日本ノ友情ヲ特ニ切望シテ止マナイ

四、四月二十五日上海發聯合ニ依ル「レーサム」談次ノ如シ  
余ハ通商使節テハナク通商問題一切ハ同行ノムーア氏カ  
引受ケテ居ル、濠洲政府ノ外交ハ英本國ノ外交ト完全ニ  
一致シテ居ルノテ濠洲トシテ別個ノ政策ヲ樹テルヤウナ  
事ハ斷シテナイ、特ニ必要ナ場合ハ聯邦ノ通商貿易ヲ促  
進スル爲メ通商代表ヲ置クコトカ出來ルカ通商代表設置  
問題ハ余ノ歸國後直ニ決定サレル筈タ、目下ノ所シン  
ガポール、スラバヤ及ヒ日本ノ適當ナ個所ニ通商使節ヲ  
置キタイト思ツテ居ル

編注 本文書の作成局課は不明だが、欄外に広田外務大臣、

重光外務次官、東郷欧米局長のサインがある。

ニー」ニテ國防計畫ヲ説明演説シ(イ)國防ハ政黨派ヲ超  
越シ一般ノ援助ヲ期待ス(ロ)海軍ハ單ニ外敵侵入防禦ヲ以  
テ充分トセス貿易線保護ハ更ニ緊要ニシテ強大ナル海軍  
力ヲ缺ク可ラス(ハ)沿岸防禦ノ強化陸軍ノ機械化義勇軍ノ  
完全ナル訓練等ノ外一九一八年以來中斷ノ新西蘭トノ陸  
軍ノ聯絡ヲ計リ(ニ)三年間實行後續延ヘノ空軍九年計畫ヲ  
實現シ(ホ)更ニ軍需品製造工場ヲ新設ス云々ト述ヘ一般ノ  
好感ヲ得タリ。(昭和八年九月二十九日附村井總領事報告  
)

五、オーストラリア聯邦内閣ハ過般ノシンガポール英帝國海  
軍會議ノ決定ニ基キ且ツ日本ノ對支政策聲明ヲ中心トス  
ル極東ノ新シキ緊張ニ對處スルタメオーストラリア北面  
ノ要港ダーウィン一帶ノ軍事的施設ニ巨費ヲ投シテ此ノ  
際大々的擴充ヲ圖ルコトトナリ既ニソノ具體的立案ニ對  
シ承認ヲ與ヘル用意カ出來テ居ル由テアル、右計畫ハ  
「ダーウィン要塞」ノ擴張整備

六、海軍根據地及ヒ空軍根據地トシテダーウィンニ新施設  
ヲナスコト

ノ二部分ニ分レ附隨的ニメルボルンニアル艦隊及ヒ軍用

船隊等ヲダーウィン港救援ノタメ急航セシメル一大航海  
演習ヲ行フ計畫モ含マレテ居ル。(四月二十七日メルボル  
ン電通)

別紙(B)

一、昭和五年三月濠洲聯邦政府ハ在シドニー井上總領事ヨリ  
ノ紹會ニ對シ極東ニ通商代表派駐ノ件ハ未タ考慮シ居ラ  
ス從テ何等決定セル所ナキ旨回答シタルモ同地支那總領  
事ノ言ニ依レハ何等同總領事側ニ意思表示アリタルモノ  
ノ如シ(昭和五年三月井上總領事報告)

二、昭和五年八月シドニー於ケル東洋貿易ニ關スル圓卓會  
議(濠洲聯邦政府主催官民ノ東洋貿易ニ關スル會議ニシ  
テ邦人商社モ代表列席セシメタリ)ニ於テハ東洋各地ニ  
通商代表ヲ置クノ必要ヲ認メ大体新嘉坡及爪哇ニ一人上  
海ニ一人ヲ必要トスルコトニ意見一致シタリ(昭和五年  
八月井上總領事報告)

三、四月二十二日香港發聯合ニ依レハ「レーサム」ノ新聞記  
者ニ爲セル談話左ノ如シ  
我々ノ使命ハ單ナル通商使節タルニ在ルノテハナクモツ

### 濠洲聯邦親善使節「レイサム」外相一行ノ來朝

#### ニ對スル待遇振ニ關スル件

濠洲聯邦政府ニ於テハ同政府副總理兼外相「レイサム」ヲ  
親善使節トシテ日本及東洋諸國ニ派遣スルノ計劃ヲ有シ本  
年一月在本邦英國大使ヲ通シ右ニ對スル帝國政府ノ意図ヲ  
問合セ來レルニ付帝國政府ハ「レイサム」外相ハ夫人令嬢及  
隨員五名ヲ同伴三月十七日「メルボーン」出帆蘭領東印度  
及支那訪問ヲ了ヘ來ル五月九日神戸ニ上陸後約二週間本邦  
ニ滯在ノ上同二十一日長崎ヨリ直路歸國ノ豫定ナル處右使  
節ノ來朝ニ對シテハ日英、日濠間ノ關係ニ顧ミ將又同使節  
ノ使命及本國ニ於ケル地位ニ鑑ミ特ニ政府ノ賓客トシテ待  
遇スルコト可然從テ當省ニ於テ接伴スルコト致度

編注 本高裁案には裁可日が記されていないが、欄外に重

光外務次官以下関係局課長のサインがある。

~~~~~

昭和9年5月1日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

オーストラリア副首相一行の南京來訪および

今次使節本來の目的は日豪友好關係促進にあ

るとの同副首相言明について

南京 5月1日後発

本省 5月1日後着

#### 第四二二號

一、濠洲副總理「レーサム」ハ廿九日朝當地着汪院長ト會見シ政府及新聞社ノ歡(迎)宴ニ出席シ三十日ハ林主席ニ謁見シ夜ハ汪院長ノ宴會ニ臨テ同夜離寧赴平セルカ廿九日東亞ノ現勢ニ對スル所見如何トノ新聞記者ノ問ニ對シ支那ノ事ハ支那ノ問題ナレハ自ラ先ツ之カ解決ヲ計ラサルヘカラス濠洲政府ハ平和ヲ希望スルノミ又商務官設置ハ未タ計畫中ナルモ實現セハ其ノ駐在地ハ支那ニ於テハ上海ナルヘシト答ヘタル由ナリ(新聞ニ發表セス)

二、「レ」ハ三十日英國總領事ト共ニ本官ヲ來訪シ自分ハ同時ニ支那政府ノ賓客ナレハ南京ヲ素通りニスル譯ニモ行カス主席及院長ニ敬意ヲ表シタル次第ナルカ本來ノ目的

429 昭和9年5月23日 広田外務大臣より  
在シドニー村井總領事宛(電報)

オーストラリア副首相との会談要旨について

付記一 作成日不明、情報部第一課加瀬事務官稿

「廣田外務大臣ノ濠洲聯邦親善使節『レーサム』外相接見會談要領(昭和九年五月十二日午前十時)」

我が方小麦生産事情などに対するオーストラリア側の諒解取付け方要請

本省 5月23日後9時0分発

#### 第一八號

濠洲外相「レーサム」ハ(十日ヨリ十六日迄滯京二十一日長崎出帆歸國)十一日本大臣ヲ來訪シ英國代理大使同席約一時間半ニ亘リ會談セルカ要領左ノ通り

一、本大臣ヨリ歡迎ノ意ヲ表シタル上自分ハ英帝國トハ最モ緊密ナル友好關係ノ維持増進ヲ欲スル處最近通商競争ニ付兩國間ニ問題起リ居る際濠洲政府ノ親善使節ヲ迎フルハ日英關係全般ヨリ觀テ欣幸トスル旨述ヘタル處「レーサム」ハ謝意ヲ表シタル後今回ノ來朝ハ英本國政府ノ贊成支持ヲ受ケ居レルヲ以テ一面英國政府ノ貴國ニ對スル親善ノ意思表示トモ解釋シ得ヘシト信スト述ヘタリ

二、次ニ「レ」ヨリ一部濠洲人間ニハ Japanese menace ヲ云々スルモノアリト述ヘタルニ付本大臣ハ右カ杞憂ニ過キサルコトヲ説明シ尙對日不安ノ問題ハ日本ノ東亞ニ於ケル立場ト其ノ外交方針ノ精神トヲ理解セハ忽チ消散スヘキモノナリトテ日本ノ善隣政策ヲ説明スルト共ニ聯盟脱退後東亞平和維持ノ我責任愈々重大ヲ加ヘタル所以ヲ告ケ何ニスルモ日本ハ濠洲等ヲ窺フ餘力無ク現ニ蘭嶺印度ノ如キハ殆ト丸腰ナルモ日本ト親善關係ヲ維持シ居リ最近日蘭仲裁條約ヲ調印シ且下御批准ノ準備中ナル次

ハ日濠友好關係ノ促進ニアリ上海ニテ貴國政府ノ鄭重ナル歡迎「プログラム」ヲ承知シ感謝シ居レリト述ヘ居タリ  
尙「レ」ハ六日迄ニハ上海ニ引返シ渡日ノ筈ナル由  
支、北平へ轉電セリ

四、代表派遣ノ件ニ付テハ「レ」ハ濠洲ハ今日迄外交代表ノ必要ヲ感セサルモ通商代表ヲ日本ニ派遣スル意向ヲ述ヘタリ

五、通商問題ニ關シ「レ」ハ濠洲關稅政策ヲ縷述シ關稅調查會具申ニ拘ラス日本品ニ對スル增稅ヲ差控ヘ單ニ英國品ニ對スル減稅ニノミニ止メタル位ニシテ政府トシテハ日

貨ニ對シ差別待遇ヲ行ヘルコトナキ次第ナリ最近二三ノ日貨ニ對シ爲セル若干ノ增稅ハ國內產業保護ノ爲萬已ムヲ得サリシモノナリト辯明セル後既ニ濠洲トシテハ關稅問題一段落ナルヲ以テ何等カノ協定可能トナレル次第ナリト述ヘタルニ付本大臣ヨリ片貿易調整ノ爲ニモ濠洲ニ於テ本邦品ノ輸入ニ努メラレ度キ旨告ケタルニ「レ」ハ通商問題ハ専門家ヲシテ討議セシメ以テ協定締結問題ノ解決ヲ計リ度シト答ヘタリ

尚十五日來栖通商局長「ムーア」ト會見セルカ委細ハ別報ス

本電英、米ヘ轉電シ在滿大使、在支公使、北平、南京、上海ヘ暗送セリ

英ヨリ在歐大公使及壽府ヘ、米ヨリ加奈陀ヘ暗送アリタシ

「レーサム」貴國朝野ノ盛大ナル歡迎ニハ感激シ居レリ濠洲ハ近時太平洋ヲ圍繞スル諸國ト益々好誼ヲ増進スル必要ヲ認メ居ル處從來日本ヨリ幾多名士ノ來遊アリ英帝國ノ太平洋方面ニ於ケル最大ノ一構成分子トシテ濠洲トシテモ之等ニ對シ答訪ノ希望ヲ有シ居リタル次第ナルカ今回英國政府ト事前ニ打合セヨ行ヒ其ノ贊成支持ヲ受ケ親善使節トシテ來朝シタルニ付テハ自分等ノ使命ハ一面ニ於テ英國政府ノ貴國ニ對スル親善ノ意思表示トモ解釋セラレ得くシ(as a visit of Good will and friendship on the Part of Great Britain)ト信スト述ヘ更リ

濠洲ニ於テハ民間一部ニ無責任ナル言論ヲ弄フモノアリ日本ヲ危險視<sup>ハ</sup>(Japanese Menaceト)クリ其野心ニ對スル警戒ヲ必要トスト云フモノアル處政府ハ斯カル妄說ハ一顧タモセス終始日濠親善ニ努力シ來レリ此ノ點ヲ明確ニ致シ度ク今回ノ渡日モ實ハ第一ニ此ノ濠洲政府ノ見解ヲ貴國政府ニ御諒解願ヒ度キ趣旨ニテ發意セラレタルモノナリト説キ次テ通商關係ニ言及シ詳細ニ濠洲政府ノ關稅政策ヲ説明スルトコロアリ濠洲ノ關稅ハ高シトモ言ハレ低シトモ言ハレ各様ノ議論アル處關稅政策ハ議會トノ關係モアリ政府ノ

#### (付記)

廣田外務大臣ノ濠洲聯邦親善使節「レーサム」外相(The Right Honourable John C. Lathem, Minister for External Affairs and Deputy Prime Minister of Australia)

接見會談要領(昭和九年五月十一日午前十時)

「レーサム」外相ハ午前十時「ドツド」英國代理大使同伴外務大臣官邸ニ廣田大臣ヲ來訪、各新聞社寫眞班ノ撮影終ツテ後暫時庭園ヲ散策シ雜談ヲ交シタル上官邸階上ニテ會談開始セラレタリ(「ドツド」ハ遠慮勝チナリシモ大臣差支無シト云ハレ同席ヲ許サレタリ)大臣ヨリ閣下今般ノ御來朝ニ際シ本邦朝野ヲ舉ケテ熱誠ナル歡迎ノ意ヲ表シツツアル次第ハ連日ノ新聞記事等ニテ既ニ御承知ナルヘン余ハ閣下一行ノ御來訪ニ對シ衷心欣快ノ念ヲ禁スル能ハス日本ト英國トハ嘗テ同盟ノ誼ヲ有シタル間柄ニテ余ハ英帝國ト最も緊密ナル友好關係ヲ維持増進セント欲ス最近通商競爭ニ關シ日英間ニ問題起り居ル處此際ニ當リ濠洲政府ヨリ親善使節ヲ迎フルハ日英關係ノ全般ヨリ觀テ余ノ特ニ欣幸ニ感ツルトコロナリト言ハレ

立場ニ敵トシテ困難アリテ必シモ政府ノ政策常ニ實行ヲ見サル實狀ニ在リ濠洲ハ保護關稅國ナルモ保護ノ程度ハ自國產業ノ發達程度ト外國產業ノ競爭程度トニ依リ決定セラレ居レリ濠洲ニハ(英帝國特惠稅率ト)一般稅率トノ二種アリ英帝國以外ノ外國品ニハ一樣ニ一般稅率ヲ適用シ何國ニモ差別待遇ヲ致シ居ラス然ルニ向<sup>ハ</sup>〔ダニピング〕稅ナルモノアリ未タ何國品ニモ之ヲ課シ居ラサルモ關稅調查會ニ於テ參考資料ニ付種々 public inquiry ヲ遂ケタル上ニテ課稅率等決定セラル仕組トナリ居レリ然ル處兩三年前濠洲通貨下落シ(又其後諸國ノ爲替動搖セル結果濠洲產業ハ期セシシテ關稅上ノ保護ヲ追加(英國品ノ場合ノ如シ)セラレ又ハ保護ヲ減少(日本品ノ場合ノ如シ)セラルコトトナリタル爲メ關稅調查會ニテ對策ヲ研究シ結局(爲替上騰國ニ對シテハ關稅ヲ引下ケ)下落國ニ對シテハ之ヲ引上クルヲ可トストノ意見ニ達シタリ然レトモ濠洲政府ハ日本トノ友誼ニ鑑ミ貴國品ニ對スル增稅ヲ差控フルコトトシ關稅調查會提出ノ「リコメンデーション」中其ノ一半ノミヲ實行シ英國品ニ對シ減稅ヲ行フニ止メタリ右ノ措置ハ偏頗ニシテ非論理的ナリトテ今尚ホ政府ハ攻擊ヲ受ケツツアリ元來

關稅調查會ノ「リコメンデーション」ハ政府ニ於テ論議無ク之ヲ實行スル習慣トナリ居リタル爲メ今回日本ニ對シ取リタル態度ハ特ニ非難ノ的トナル譯ナルカ濠洲政府トシテハ巷間往々唱ヘラルカ如ク日本品ニ對シ差別待遇ヲ嘗テ行ヒタルコト無キノミナラス却テ貴國ノ爲メ從來ノ政策ヨリ逸脱スルヲ (departure from general policy in favour of Japan) 敢テセル底(下)ノ行爲ヲ示シ居ル次第ナリ最近二、三ノ日本品ニ對シ若干ノ增率ヲナセルハ事實ナルモ之等ハ何レモ日本品ノ殺倒(銷)ノ爲メ苦境ニ瀕シタル土着産業保護ノ爲メ萬口ムヲ得サリシモノニテ假ニ貴國カ同一立場ニ立タレンナランニハ恐ラク同様ノ手段ヲ執ラレシナラン自分ノ渡日ハ昨年末ノ議會ニ於テ現行關稅初メテ決定セシ事實ニモ鑑ミ本年迄ハ不可能ナリシ譯ナルカ既ニ關稅問題落着済ミナルヲ以テ茲ニ愈々何等カノ協定モ可能トナレル次第ナリ(ready to make special agreement)ト又negotiation can be now started トモ<sup>ト</sup>ヒタリ)ト縷述セルニ對シ大臣 日本ノmenace カ杞憂ニ過キナル所以ヲ説明セラレスノ如キ心配ハ日英同盟繼續セラレ居リタランニハ起ラサリシナルヘシ余ハ日英同盟ノ廢棄ノ理由ヲ解スルニ苦ム

ナル不況時代以來軍備ヲ大ニ縮少シ海軍等ハ目下僅ニ必要ナル代換ヲ行ヒ居ル程度ナリ思慮無キ言説ハ得テ不安ヲ挑發スヘシ次ニ常駐代表ニ付テ外交代表ト通商代表(trade representative)トニ分チ考へ得ヘキカ外交代表ハ濠洲ハ今日迄特ニ海外ニ之ヲ派遣スル必要ヲ感セス(has felt no occasion to consider seriously) 淡泊ニ申上クレハ(一)英國外交官ハ經驗モ豊富ニシテ濠洲ハ英國ヲ通シテ交渉スル方有利ナリ且(二)濠洲ノ涉外事務ハ實際上外交機關ヲンテ處理セシムヘキコト多カラス又(三)他國トノ振合上外交使節ヲ特定國ニ派遣スル以上他ノ諸外國ニモ派遣ノ必要起リ莫大ノ費用ヲ要スヘク從テ外交代表ノ常駐ハ困難ナリ(大臣、加奈陀ノ如キハ公使ヲ常駐セシムルモ其職務ハ主トシテ通商事務ノ管掌ニアルモノノ如シト註セラル)通商代表ノ派遣ハ右ト異リ濠洲政府ニ於テモ必要ヲ大ニ感シ居リ現ニ最近議會ノ協賛を得タル上第一着ニ「ニュージーランド」ニ派遣シタリ第二着トシテ東洋ニ派遣ノ必要アリ(in the East Asia)然ルニ今日迄代表トシテ自薦セルモノ六百余名ニ上レルニ拘ラス適任者ハ一名モ發見シ居ラサル事態ナリ日本ニ通商代表ヲ派遣スルコトヘ in prospect ナリ貴大臣

(「レーサム」ハ深ク肯キ居タリ)濠洲政府ノ立場ハ諒トスルモ尙一般ニ於テモ此種ノ不安ヲ一掃スル様御盡力ヲ願フ閣下ノ御來朝ヲ迎ヘ我國一般カ貴國ニ對スル認識ヲ深メツアルハ御覽ノ通リナル處我國民ノ最大關心ハ現在日本カ貴國ヨリ莫大ノ輸入ヲナシ居ルニ鑑ミ貴方ニ於テモ大ニ安價ニシテ良質ナル我國製品ヲ輸入サレ度シト云フニアルヘシ右ニ關聯シ貴方ヨリ本邦ニ何等カノ常駐代表者ヲ置カルルコト貴我通商關係ヲ益々緊密ナラシムル上ニ於テ必要且便宜ナルヘシト考フト述ヘラ  
「レーサム」 日本ノmenaceナル不安カ一般濠洲人間ニ潛在スルハ否定シ(disguise)得サルトコロナルカ政府ノ見解ハ全ク別ニシテ日本ニ對シ何等ノ不安猜疑ヲ有セス此ノ點ヲ明瞭ニセン爲メ自分等ハ來朝シタルモノナリ尤モ國際間ノ不安猜疑ハ個人ノ無責任ナル言動ニ發芽スルコト尠ラス濠洲政府ハ日本ノfriendly policy(「満足シ居レリ然ルニ日本ニ於テハ時トシテ外國ノ意圖(尤モ米國ニ對スル場合ノ方英國ニ對スル時ヨリモ甚シキ様ニ思ハルカ)ニ對シ驚クヘキ奇異ナル感想ヲ抱クモノアル様ニ思ハル例ヘハ英國ノ新嘉坡軍港築城ニ關スル臆測ノ如シ濠洲ハ先般ノ深刻然ニ解決ヲ見ルヘシト信スト)言ヒ

ニ示スモノナリト説カレ兎ニ角通商代表ハ實現致シ度ク貴方ニテ派遣ヲ見ルニ於テハ我方ヨリモ同種ノ代表ヲ派遣スルニ吝ナラスト語ラレ

「レーサム」 滿洲國ニ付テハ現在ヨリモ適切ナル解決(solution)必要ナルヘン自分ハ日本ノ聯盟復歸ヲ希望シテ曰マスト云ヒ轉シテ南洋委任統治問題ニ言及シ實ハ誰レ云フトモ無ク(emanating from nowhere)日本カ委任統治諸島ヲ武裝シ居レリトノ風説行ハレ濠洲人ノ不安ヲ釀シ居レリト云ヒ

大臣 斷シテ然様ノコト無シ日本ハ聯盟ヘ年報ヲ提出シ居ル處右報告中ニモ我委任統治ノ實況詳シク記載アリ又日米間ノ取極ニモ鑑ミ日本ヨリ右統治地域ノ返還ヲ要求スヘシトノ說盛ニ行ハレタル結果(日本トシテハ法理上聯盟ヲ脱退セル後モ委任統治地ハ尙繼續シテ mandate トシテ保有シ得ルニ拘ラス)一部ノ「ジンゴイスト」カ之ヲ武裝スヘシト云ヘルコトハアランモ日本ニ武裝等ノ意思ハ絶無ナリト言ハレ

「レーサム」 (満足ノ色ヲ示シ)自分ハ巴里媾和會議ニ列

カ如ク觀察セラル日本側ハ今少シ宣傳ノ必要無キヤ支那ハ Bad case ヲヤ Good case ヲナスニ反シ日本ハ good case

ヲモ bad case ヲベル結果トナラスヤト述べ

大臣 日本ハ二千五百年來島國ニシテ外交無カリシ國柄ナ

リ反之支那ハ体裁ハ國家ヲナスモ實際ハ分裂シ國內ニ國ヲ

成シテ權謀術策ヲ事トセル爲メ外交的手腕ニ長シ居レリ且

亦日本人ノ氣質トシテ我レ正義ヲ行フニ於テハ「千萬人ト

雖モ吾行カン」ノ氣概ヲ以テ必シモ宣傳ヲ行フヲ要セスト

考フル傾アリト應セラレ

「レーサム」 夫レハ問題ナリ神話ノ時代ニ於テハ夫レニ

テモ善カリシナランモ今日ハ然ラスト答ヘ

會談一時間半餘ニテ「レーサム」ハ本日ノ會見ノ極メテ有

意義ナリシ次第ヲ繰返シ述ヘ大臣ノ好意ヲ深謝シ退出セルカ去ルニ臨ミ大臣ヨリ通商問題ニ關シ實際の御話ヲ進メ度キニ付來栖局長ヲ御引見相成度シト述ヘラレ「レーサム」來週中成ル可ク自分ニ於テ(不可能ナラハ「ムーア」ヲ代理トシ)會見スヘシト快諾シタリ。

(加瀬)

尙去ルニ臨ミテ濠洲產小麥ノ満洲國輸入ニ關シ大臣ノ幹

シC 「マンデート」條項ハ自ラ之ヲ起草シタル關係モアリ委任統治權カ聯盟ノ一員タルコトヲ條件トセス右ノ權原ハ主要聯合國(ノ申合セ)ニアリトノ見解ヲ保持スルモノナリ

(米國ト「アルメニア」トノ經緯ヲ引證セリ)又自分ハ日本ノ統治地域ハ親シク知リ居ルモノナルカ同方面ニハ武裝ノ價值アル地點絶無ニシテ數百萬磅ヲ投スルモ無益ナルコトヲ充分ニ存シ居レリ此ノ故ニ貴國カ聯盟ヲ脫退セシ時日本カ同地方ヲ盛ニ武裝シ居レリトノ議論行ハレタルニ對シ自分ハ議會ニ於テ頭ヨリ之ヲ否定シタリ就テハ甚々差出カマシキモ日本政府ニ於テ適當ナル方法ヲ以テ一例ヘハ次期ノ聯盟年次報告中ニ一(1)日本ハ絕對ニ武裝シ居ラス又(2)何等武裝ノ價值無キコト及ヒ(3)日本ハ委任統治ニ關スル規約條項ヲ誠實ニ履行シツツアルコトヲ中外ニ definitely and clearly ニ「アナウンス」セラルルニ於テハ濠洲ノ對日不安ノ五〇「パーセント」ハ直ニ消散スヘシト考フト誠意アル口調ニテ述ヘ更ニ話頭ヲ轉シテ自分ノ法律家及ヒ國務大臣トシテノ印象ナルカ日支紛爭ノ「メリット」ハコレヲ問ハス一般ニ支那側ノ立場主張ノ方日本側ニ比シ遙ニ有利ニ宣傳セラレ居リ支那ノ方カ廣ク同情ヲ蒐メ居ルコト疑ヒ無キ

旋ヲ求ムルトコロアリタリ

(付記II)

九文第三七八號

昭和九年五月十五日

農林次官 石黒 忠篤(印)

外務次官 重光 葦殿

日本濠洲間貿易ニ關スル件

今般濠洲「レーサム」外相來朝ノ機ニ於テ日濠間貿易其ノ他ニ關シ種々御交渉有之趣ノ處當省所管事項ニ關シテハ左記事項ニ付特ニ御配意相成度氣付ノ點爲念此段申進候也

記 (5月16日接受)

一 濠洲ニ於テハ一九二九年十一月種縮羊ノ輸出ニ關スル布告ヲ以テ種縮羊ノ輸出ニハ貿易稅關大臣ノ認可ヲ要スルコトシ爾來「メリノー」種縮羊ノ輸出ハ之ヲ認可ザル次第ノ處本邦トシテハ農家ニ於テ副業トシテ飼育スル縮羊ノ品種改良ノ必要上從來濠洲ヨリ種縮羊ノ輸入ヲ爲シ來レルモノナルニ付テハ適當ノ機會ニ於テ今後濠洲側ニ於テ本邦ニ對スル「メリノー」種等ノ優良種縮羊ノ

輸出ヲ阻止スルガ如キコト無之様諒解取付方御配慮相煩度

二 國土狹隘人口稠密ニシテ農業ノ規模小ナル我國ニ於テハ農業經濟ノ維持上既耕地ノ利用ト農業勞力ノ活用トヲ極度ニ集約ナラシメ其ノ收益增加ヲ圖ルノ外ナキ次第ノ處小麥ハ冬期ニ於ケル休閑地ノ利用上殆ド唯一ノ適作物ニシテ之ガ栽培ノ要極メテ緊切ナルモノアリ而シテ一面小麥ノ需要ハ漸次增加シ來リ毎年海外ヨリ多額ノ輸入ヲ必要トル實情ニ在リタルヲ以テ國際貸借改善ノ見地ヨリモ小麥増殖ノ急務ナルヲ認メ昭和七年度來五ヶ年ノ豫定ヲ以テ小麥増殖計畫ヲ樹立シ目下其ノ實行ノ途上ニ在リ農業者ハ小麥ガ夏期ニ於ケル現金收入ノ最モ重要部分ヲ爲ス關係上本計畫ヲ機宜ノ施設ナリトシテ熱心ニ之ヲ迎ヘ其ノ增殖成績頗ル顯著ニシテ昭和八年度收穫ハ前年ニ比シテ約百五十萬石ノ增收ヲ示シ計畫年度内ニ於テ國產小麥ヲ以テ國內純消費額ノ全部ヲ充タシ得ルノ見込確實ナル趨勢ニ在り然ル處本增殖計畫ノ目的達成上適當ナル小麥價格ヲ維持スルハ缺クベカラザル必要措置ニシテ之ガ爲ニ本計畫樹立ト共ニ小麥及小麥粉ノ關稅引上ヲ行

430

昭和9年5月31日 在香港蘆野(弘)總領事代理より

広田外務大臣宛

オーストラリア副首相一行の我が方よりの帰途

香港・廣東來訪について

(6月8日接受)

昭和九年五月三十一日

在香港

總領事代理領事 蘆野 弘(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

濠洲首相代理レーサム氏ノ當地ニ於ケル動靜ニ

関スル件

濠洲首相代理レーサム氏以下極東親善使節ノ一行ハ日本ヨリノ帰途本月二十五日早朝北野丸ニテ當地着翌二十六日午前十一時半解纏全船ニテ濠洲ニ向ヒタルカ「レーサム」氏ハ着香後直チニ「ムーア」及「スタンディッシュ」ノ両名ノミヲ伴ヒ汽車ニテ廣東ニ赴キ翌日出帆間際ニ帰來セリ之カ爲北野丸ハ特ニ入港及出港ノ時間ヲ加減スルコトヲ要シ又香港總督ハ予テ一行ノ爲ニ二十五日夜晚餐会ヲ催シ居リシカ全氏ハ之ニ出席出來ス夫人令嬢及他ノ隨員ノミ出席セリ

ヒ爾來常ニ右價格維持ニ付慎重ナル考慮ヲ拂ヒ來レル次第ナルガ北米合衆國其ノ他外國產小麥ノ壓迫ニ因ル價格低落ニ付テハ今後最モ細心ノ用意ヲ必要トル實情ニ在リ現ニ北米合衆國ニ於テハ昨年秋以來滯貨小麥ヲ處分スル爲主トシテ東洋市場ニ對シ政府ノ補償ニ依ルダンピングヲ實施シツツアリ合衆國政府ノ小麥補償輸出ハ夫レ自身我國小麥生產ニ對スル脅威タルノミナラズ主要輸出國ノ我國向小麥ニ付テモ又其ノ對抗上當然價格ノ引下ヲ誘致スル虞アリ濠洲產小麥ノ價格ハ最近漸次低トノ傾向ニ在リ從テ將來海外主產地ノ小麥相場、對外爲替相場等經濟事情ノ變移ニ應ジテハ外國產小麥ノ輸入ニ對シ何等力ノ防衛的措置ヲ講ズルノ必要已ムヨ得ザルガ如キ事態ニ當面スル場合アルベキヲ以テ濠洲產小麥ニ付テモ其ノ一定量ノ輸入ヲ確保スルガ如キコトヲ爲シ得ザルハ勿論本邦小麥價格維持上其ノ輸入ニ對シ制限的措置ヲ採ルノ已ムヨ得ザル場合モアルベク右ニ關シ此ノ際濠洲側ニ於テ本邦國內事情ニ付充分ナル諒解ヲ得置ク様取計相成度

ト談話セリ右會見談委曲ハ別紙五月二十六日ノ全紙<sup>(省略)</sup>切抜二

本信写送付先 在華公使、在廣東總領事(以上切抜)

省略)在シドニー總領事

日豪親善および通商増進のため我が方有力人物を  
オーストラリア方面に派遣したき意向について

本省 9月21日後8時30分発

431

昭和9年9月20日

在シドニー村井總領事より

広田外務大臣宛(電報)

オーストラリア副首相来日の答礼使として我  
が方大使級人物の同國往訪報道につきその眞  
偽照会について

シドニー 9月20日後発

本省 9月20日後着

第五八號

十九日「ヘラルド」ハ東京特電トシテ「レーサム」訪日ノ

答禮使トシテ大使級ノ人物十月頃來濠斯ヘク歸途南(脱?)

ヲ經テ南阿ニ赴ク豫定ナルヲ報シ居ル處政府當局並ニ新聞

等ニ對スル對應モアリ右電報ノ眞偽ニ付何分ノ儀御回電ア

リ度シ

433 昭和9年10月20日

在シドニー村井總領事宛(電報)

オーストラリア政府との通商條約締結交渉開

始方訓令

通一機密第八八號

昭和九年十月二十日

外務大臣 廣田 弘毅

在シドニー

總領事 村井 倉松殿

432 昭和9年9月21日

広田外務大臣より

在シドニー村井總領事宛(電報)

日濠間通商條約締結ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ電報並ニ五月二十八日附通一機密第四  
三號公信ヲ以テ申進ノ通リナル處今般帝國政府ニ於テハ愈々  
本邦及濠洲聯邦間ニ通商條約ヲ締結スルコトニ決定シタル

ニ付貴官ハ濠洲政府ニ對シ別添第一號條約案及第三號交換

公文案提出ノ上本件妥結方折角御努力相成様致度此段申進

ス

尙交渉ニ關スル我方々針、條約案及交換公文案ニ關スル說

明ニ付テハ別添<sup>(別添)</sup>至第一號ニ依リ委曲御承知アリタシ

(別添第一號)

日本國及「オーストラリヤ」聯邦間通商條約締結

ニ關スル根本方針

一、今回日濠間通商條約締結交渉開始ニ決シタル主要ナル動  
機ノ一ハ英帝國經濟「ブロック」強化其他各國ノ輸出入  
均衡主義ノ結果帝國ノ蒙レル輸出減少ニ對處スル爲不得  
已本邦ニトリ輸入超過關係ヲ示シ居レル各國トノ片貿易  
ヲ調節セサル可ラサルニ至リタルニ在ル處、一對一ノ比  
率ニ依ル平衡主義ノ如キハ濠洲側ノ實情ニ顧ミ言フヘク

シテ行フ可ラサル所ナルヲ以テ濠洲ニ輸入セラルル本邦  
品ニ對スル關稅引下ヲ實現セシムルコトニ依リ我方所期  
ノ目的ヲ達セントスルモノナルカ之カ實際方法トシテハ  
協定稅率ヲ相互ニ設定スルコト致度シ  
二、然ル所正式條約締結ノ爲ニハ本邦人入國問題其他濠洲側  
ノ必スシモ歡迎セサルヘキ問題ヲモ取扱フヘキ必要アル  
處貿易ノ現狀ニ於テハ本邦ハ濠洲ニ對シ重要ナル顧客ノ  
立場ニ立ツモノナルカ故ニ此種問題ノ解決ニ付テモ今回  
ノ機會ヲ利用スルコト必然ト思考ス依ツテ我方條約案中  
ニハ此等諸問題ニ對スル我方希望ヲ織込ミ置タリ、交渉  
ノ方針及順序等ノ細目ニ關シテハ別添第四號通商條約案  
説明中ニ詳述ス

三、濠洲ハ現在本邦商品ニ對シ爲替補償附加稅ヲ課シ居ラサ  
ルモ昨年來同國關稅審議會ハ本邦品數種ニ付同稅賦課ノ  
目的ヲ以テ審査ヲ行ヒツツアリテ將來本邦品ノ進出ニ伴  
ヒ本邦品ニ同稅ヲ賦課スル虞アリ依テ今回ノ機會ニ於テ  
本邦品ニ對シ右附加稅ヲ課セサルヘキヲ約セシムルコト  
致度ク出來得レハ濠洲政府ヨリ別添第三號ヘノ趣旨ノ  
公文ヲ發セシメ我方ヨリ別添第三號トノ通り之ヲ諒承ス

第三十七號 貴電第五八號ニ關シ日豪親善及通商増進ノ目的ヲ以テ適當

ナル時機ニ南洋及貴地方ニ有力ナル人物ヲ派遣シタキ意図  
ナルモ時機其他ニツキテハ未タ決定シ居ル次第ニアラサル  
ニ付右御含ノ上可然應酬相成度

貴電及本電ノ趣旨在英大使ヘ轉電セリ



- (a)the treatment which is or may be given to the national fishing industries of each of the two countries,
- (b)the advantages which are or may be granted by Japan regarding fish and other aquatic products taken in the foreign waters in the vicinity of Japan, and
- (c)the advantages which either of the two countries has or shall have granted to any neighbouring countries solely for the purpose of facilitating frontier traffic on a limited zone on both sides of the frontier.

#### Article 5.

Articles, the produce or manufacture of either of the two countries shall be placed, in the territories of the other, on the same footing as similar articles of native origin in all that relates to internal taxes, duties, charges or other impositions.

#### Article 6.

Schedule, nor to any additional duties higher or other than those imposed on similar articles imported from any other country.

Article 7.

The coasting trade of Japan and of the Commonwealth of Australia is excepted from the provisions of the present Treaty, and shall be regulated according to the laws of the two countries respectively.

It is, however, understood that the Japanese and Australian vessels shall be entitled to proceed from one port to another, in the territories of each other, either for the purpose of landing their passengers or cargo brought from abroad, or of taking on board their passengers or cargo going abroad.

#### Article 8.

The provisions of the present Treaty shall apply to all the territories and possessions, belonging to, or administered by either of the two countries.

The articles, the produce or manufacture of the territories of Japan, enumerated in the Schedule A annexed to the present Treaty, shall not, upon importation into the territories of the Commonwealth of Australia, from whatever place arriving, be subjected to higher customs duties than those specified in that Schedule.

Articles, the produce or manufacture of the territories of Japan shall, so far as the prime duties or any kind of additional duties are concerned, be accorded the same treatment as is or may be accorded to similar articles, the produce or manufacture of the territories of the British Commonwealth of Nations.

The articles, the produce or manufacture of the territories of the Commonwealth of Australia, enumerated in the Schedule B annexed to the present Treaty, shall not, upon importation into the territories of Japan, from whatever place arriving, be subjected to higher customs duties than those specified in that

The present Treaty shall be ratified, and the ratifications thereof shall be exchanged at Tokio as soon as possible. It shall enter into operation on the thirtieth day after the date of the exchange of ratifications and shall remain in force for... years from that date.

In case neither of the High Contracting Parties shall have given notice to the other twelve months before the expiration of the said period of its intention to terminate the Treaty, it shall continue operative until the expiration of twelve months from the date on which either of the High Contracting Parties shall have given such notice.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Treaty and have affixed thereto their seals.

Done at , in duplicate, this.... th day of the.....th month of the...th year of Showa, corresponding to the.....th day of ..... 193-.

#### Article 9.

## 通商條約案説明

## (一)名稱

名稱ハ「日本國及「オーストラリア」聯邦間通商航海條約」ト致度シ

## (二)條約案説明

前文、本前文ハ大体ニ於テ昭和九年七月十一日「ロンドン」ニ於テ調印ヲ了セル日印通商條約前文ノ構文ニ依リタルモノナリ

## 第一條 本條ハ領事官ノ交換及特權ニ關スル普通ノ規定ナリ

## 第二條

(イ)第一項ニ於テハ入國、旅行、滯在及居住ノ絕對自由ヲ規定セル處右ハ何等國法ノ規定ニ支配セラルルコトナシトノ趣旨ニアラシシテ衛生公安ヲ目的トスル國法例ヘハ檢疫規則又ハ旅券規則等ニシテ外國人一般ニ適用セラルルモノニ關シテハ之ヲ遵由スヘキモノナルコトハ言ヲ俟タス唯之ヲ明記セサル所以ハ畢竟此コトタル自明ノ理ニシテ特ニ之ヲ掲クルノ必要ヲ認メサルニ由

ルモノナリ

右ノ内入國ノ自由ニ關シテハ濠洲政府ヨリ必スヤ之力削除ヲ要求シ來ルヘシト思考セラル處我方トシテハ先方ヲシテ本邦人労働者入國ノ絕對自由ヲ此際飽ク迄認メシメントスル次第ニアラサルモ正式通商條約ヲ締結スル限りハ條約ノ體裁上及國家ノ體面上入國自由ノ文字ヲ存シ度希望ナリ、從ツテ寧口最初ヨリ別添第三號(イ)ノ通り公文ヲ以テ(一)本條約第二條ノ條項ニ不拘兩國ノ各々ハ其國法ニ依リ相手國労働者ノ自國入國ヲ規律スルノ自由ヲ有スルコト(二)兩國ノ一方カ其國法ニヨリ労働者ノ入國ヲ規律スルニ當リテハ相手國労働者ニ對シ最惠國待遇ヲ與フヘシトノ趣旨ヲ濠洲側ヨリ我方ニ通告シ別添第三號(ロ)ノ通り我方之ヲ諒承スルノ案ヲ添ヘテ提示シ右ニテ妥結致度キ希望ナリ

然ル所先方ニ於テ右ニ同意セサル時ハ第二案トシテ本條第一項ヲ別添第三號(ハ)ノ通り修正シ公文交換ハ之ヲ取止ムルコト致度シ

然ルニ濠洲政府ニ於テ之ヲモ應諾セス徹頭徹尾條約中ニ入國自由ノ規定ヲ存置スルコトヲ肯セサル場合ハ當

方トシテハ第三案トシテ今次條約ヲ單ナル通商上ノ條約トシ入國、居住ノ關係ハ別個ノ取極トスルコトト致度クスクナル上ハ第一條カ條約ニ殘ルコトハ體裁上面白カラサルニ付同條ハ全然削除シ條約ハ第三條以下ノモノト致度所存ナリ、就テハ別添第三號(イ)及(ロ)ノ如キ公文交換ヲ行ヒ此機會ニ一九〇四年八月十日附濠洲聯邦外務大臣發在「シドニー」帝國總領事宛公信及同月十九日附同總領事返信ニ依ル取極ヲ整理シタル上之ヲ存續スルコトヲ明確ニ致度シ、即チ該取極ニヨリ入國ヲ簡易ニセラレ居ル者ニ官吏及技術者各種専門家、教授並ニ其家族使用人ヲ加フルト共ニ既ニ濠洲ニ入國シ居レル本邦人ニ對シテハ最惠國待遇ヲ與ヘシムルコトト致度シ

尚右取極ニヨリ現在濠洲ニ入國ヲ許サレ居レル商人其他ハ一般ニ教養アリ且濠洲人間ニ於テモ相當ノ敬意ヲ拂ハレ居ル次第ナルニ付之等商人、其家族及其使用人等ノ入國居住ニ關スル現行ノ煩雜ナル手續又ハ滯在期間ノ制限ハ之ヲ撤廢又ハ緩和セシムルコトト致度シ尚本條中 national ナル文字ヲ用ヒタル處濠洲人ヲ

national of the Commonwealth of Australia ト稱スルコト果シテ正確ナルヤニ付テハ疑義アルニ付此點ハ濠洲側ニ確メラレタル上必要アラハ可然訂正セラレ差支ナシ將又濠洲人ノ範圍如何ニ付先方ノ説明ヲ求メ必要アラハ何等書キ物トシテ殘シ置タシ

(ロ)次ニ本項ハ營業ニ關スル最惠國待遇ヲ規定セリ而シテ Callings(生業)トハ肉体的労働(御者、洗濯業、理髮業等)ヲ云ヒ Professions(職業)トハ心的労働(醫業、教師等)ヲ云ヒ Commerce トハ狹義ノ意味ニシテ商業ヲ指シ又 Industries(産業)トハ工業其他ノ生産業即漁業、林業、農業、礦業等ヲ含ムモノナリ

(ハ)次ニ本項ニ於テハ一切ノ動產又ハ不動產ノ所有、占有、質借ニ關シ相互主義ニ基キ最惠國ノ待遇ヲ與フルコトヲ規定セルモノニシテ不動產ナル文字ハ家屋、工場、倉庫、店舗等ヲ意味スルト共ニ商業用、產業用及住宅用トシテ必要ナル土地ヲ含ムモノナリ

又ハ最惠國待遇何レカ有利ナルモノニ均霑スルヲ要スルニ付其意味ヲ明ニセリ

(b) 第二項ハ單ニ本第二條ノ規定カ凡テノ會社及組合ニモ適用セラルヘキコトヲ定メタルニ過キス

### 第三條

本條ハ苟モ通商關稅及航海ニ關スル凡テノ事項ニ付テハ相互ニ最惠國待遇ヲ與フヘキ旨ヲ總括的ニ規定セルモノナリ而シテ關稅ニ關スル凡テノ事項トハ稅關手續ヲモ包含スルモノトス

### 第四條

本條ハ第三條ノ除外例ヲ示シタルモノニシテ曰濱兩國名々ニケル(a)内國漁業ニ對シ與ヘラレ又ハ與ヘラルコトアルヘキ待遇(b)日本近海ニ於ケル外國領水内ニ於テ採捕セラル魚類及其ノ他ノ海產物ニ關シ日本ニ依リ與ヘラレ又ハ與ヘラルコトアルヘキ利益(c)日濱ノ一方カ國境ノ兩側ノ一定地域ニ於ケル國境交通及貿易ヲ容易ナランムルコトヲ唯一ノ目的トシテ何レカノ隣接國ニ許與スベキ利益ハ第三條規定ノ最惠國待遇ヨリ除外セラルヘキコトヲ規定セルモノナリ從來我國ニ於テハ本條ニ記載ノ三項目ハ常ニ最惠國待遇ヨリ除外スルコトヲ主義トナシ居レルモノニシテ右三項目ニ謂フ待遇及利益ニ關スル我現

若シ先方ニ於テ我方ノ右要求ヲ容ルルニ於テハ本條除外例中ニ左ノ通り追加スルコト致度

(d) the preferences which are or may be granted by Japan to Manchoukuo, China or the Union of the Soviet Socialist Republics in regard to the customs tariff, and

(e) the customs preferences which are or may be granted by the Commonwealth of Australia to New Zealand,•••••

### 第五條

日濱兩國ノ一方ノ版圖内ニ於テ生産又ハ製造セラル貨物ノ他ノ一方ノ版圖内ニ輸入セラルモノハ内國租稅、稅金、課金又ハ其他ノ課稅ニ關シテハ同種類ノ内國產貨物ト同様ニ取扱ハルヘキ旨ヲ定メタルモノナリ

### 第六條

(イ) 第一項及第一項ノ詳細ハ別信通一機密(印押ラズ)第八九號參照アリタシ

(ロ) 第三項ハ第一項ノ趣旨ヲ濠洲品ニ適用スヘキコトヲ規定シタルニ過キス然レトモ我國現行制度ニ於テハ外國商品ニ對シ關稅以外ニ附加稅ヲ課シ居ラサルカ故ニ本項附加稅ノ部分ハ現行制度ニ於テハ實質的意味ナシ

行法上及外國トノ條約上ノ規定ハ(a)關稅定率法第七條ノ十九、(b)關稅法第一條但書ノ外ニ昭和三年一月二十三日調印ノ日本及「ソ」聯邦間漁業條約第十二條(c)大正九年法律第五十三號(關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)第六及七條並ニ大正九年朝鮮總督府令第百二十一號(昭和七年朝鮮總督府令第六十一號改正)陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル件第一條及三條ナリトス然ル所濠洲側ヨリハ新西蘭、英本國其ノ他英帝國內特定國ニ於テ產出又ハ製造セラル貨物ニ對シ與ヘ又ハ與フルコトアルヘキ關稅上ノ特惠待遇ハ前記最惠國待遇ヨリ除外セラルヘシトノ要求ヲ持出シ來ルベキコト明カナル處右ノ場合ニハ我方ニ於テモ之ヲ認ムルノ外ナシト思考シ居レルカ同要求ヲ認ムル代リニ本邦カ滿洲國、中華民國及「ソヴィエト」聯邦ニ與ヘ又ハ與フルコトアルヘキ關稅上ノ特惠モ亦前記最惠國待遇ヨリ除外セラル可ラストノ要求ヲ提出スルコト致度次第ナリ

若シ先方ニ於テ我方ノ右要求ヲ容ルルニ於テハ本條除外例中ニ左ノ通り追加スルコト致度

(イ) A表及B表ニ列記ノ商品ハ第三條ニ依リ關稅率ニ付テノ最惠國待遇ヲ受クルコト勿論ナリトス

### 第七條

(イ) 第一項ハ日濱兩國ニ於ケル沿岸貿易ハ本條約ノ規定ノ範圍外ニシテ兩國名々ノ國法ニ依リ規律セラルヘキモノナルコトヲ明ニシタルニ過キス

(ロ) 第一項ハ日濱兩國ノ一方ノ船舶カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ其版圖以外ノ國ヨリ輸送シ來レル乗客又ハ貨物陸揚ノ目的ヲ以テ又ハ同版圖以外ノ國ニ向フヘキ乗客又ハ貨物積込ノ目的ヲ以テ一港ヨリ他港ニ續航シ得ルコトヲ規定セルモノナリ

本項ニ於テ from any foreign country ×× to any foreign country ナル用語ヲ避ケ from abroad 又ハ going abroad ナル用語ヲ用ヒタルハ英本國、自治領及植民地相互間ノ航海ヲ以テ廣義ノ沿岸貿易ナリトナシ以テ本邦船舶カ右航路ニ從事スルコトヲ阻害スルノ餘地ナカラシメンカ爲メナリ(昭和六年二月十七日附井上總領事發本大臣宛公信第四八號參照)

若シ本項中ニ foreign country ナル用語ヲ用フル時ハ

英帝國版圖ハ濠洲ヨリ見テ foreign country ニ非スト  
テ例ヘハ新西蘭ニ向フヘキ又ハ同地ヨリ來ルヘキ乗客、  
貨物ニ付テハ本通商條約ノ適用ナシトノ議論ヲ生スル  
虞アルモ abroad ナル語ハ單ニ一定地域以外ヲ意味ス  
ルニ止マリ必シモ foreign country ヲ意味スルモノ  
ニアラサルニ付前記ノ議論ヲ生スヘキ懸念ナシトノ解  
釋ヲトリタル次第ナリ

## 第八條

本條約ノ條項ハ日本本土及濠洲聯邦本土ノミナラス其領  
地及屬地又ハ兩國行政權ノ及フヘキ一切ノ領域(例ヘハ  
關東州及委任統治地域)ニモ適用セラルヘキモノナルコ  
トヲ規定セルモノナリ

## 第九條

本條約ノ有效期間ハ可成長期ニ定メタク我方トシテハ少  
クモ五年ヲ提案シタン但シ先方意向ニヨリ三年迄ハ讓歩  
スルモ差支ナシ、廢棄通告期間モ期限終了期日ヨリ十二  
ケ月前トシタルモ或ハ六ヶ月トシ差支ナシ  
備考

本條約ニ於テハ第九條以外一般條約用語タル High

## (別添第五號)

通商條約締結交渉ト併行シ解決方希望ノ諸問題

一、日濠間無線聯絡開設  
日濠間無線電信ノ聯絡開設促進方ニ關シテハ襄ニ本年四  
月十日附機密公第五三號責信ヲ以テ御報告ノ次第アリ遞  
信省當局ニ於テモ右促進方ヲ切望シ居レル次第ナルヲ以  
テ本年五月「レイサム」外相一行來訪ニ際シ來栖通商局  
長ヨリ隨員「モーア」ニ對シ我方ノ希望ヲ述ヘタルカ  
「モーア」ニ於テハ本件ニ關シテハ全然門外漢ナルノ故  
ヲ以テ之ニ言及スルコトヲ避ケタル次第ハ五月二十三日  
附通一機密第四一號ヲ以テ申進ノ通りナル處最近東京商

工會議所鄉會頭ヨリ彼我貿易促進ノ爲本件實現希望方別  
添寫第六號ノ通り建議ノ次第アリタリ、就テハ本件ハ單  
ニ通商上ノ理由ノミナラス日濠兩國民親善關係增進ノ上  
ニモ極メテ重要ナル次第ニシテ殊ニ最近「マニラ」及蘭  
領印度ト本邦トノ間ニ於テ無線電話ノ試驗通話ヲ行ヒ極  
メテ満足ナル結果ヲ得タルニ付本邦「マニラ」間ニハ去  
九月二十七日既ニ一般公衆用無線電話ノ開通ヲ見タル次  
第ニシテ又蘭印トノ間ニハ近ク開通ヲ見ル迄ニ一切ノ準  
備整ヒ居レル程ナリ然ルニ將來通商上ニモ將又一般國交  
上ニ於テモ益々親密ナルヘキ關係ニ在ル日濠間ニ無線電  
信ニ依ル直接連絡方法スラ無キハ如何ニ考フルモ遺憾ニ  
不堪ニ付濠洲側ニ於テハ種々ノ事情アランモ此機會ニ於  
テ先方ヲシテ小事ニ拘泥セス大局的見地ニ立チ我方ノ希  
望ヲ容レシムル様導キ以テ圓滿解決ヲ計リ度意嚮ナリ

二、濠洲諸港ニ於ケル港費及荷役費ノ賦課率ハ他ノ諸國ニ於  
ケルモノニ比較シ高キニ過クル處斯くてハ間接ニ我對濠  
貿易ノ進展ヲモ阻害スル次第ニ付出來得ル限り之ヲ低減  
セシムルコトト致度ク又濠洲沿岸航行中ノ船舶内消費物  
品ニ對スル課稅(輸入稅、「プライメージ」稅、及「セー

ル、タックス)ニ付テモ我方承知ノ限ニ於テハ諸外國中  
斯ル課稅ヲナシ居ルモノ未タ無之次第ナルヲ以テ出來得  
ル限リ之ヲ免除セシムルコト致度シ(別添第七號參照)  
三、本邦ト加奈陀トノ間ニハ「一時渡航者」ノ旅券查證ヲ相  
互のニ免除シ居リ又左記各國トノ間ニハ凡テノ入國者ニ  
付旅券查證ノ相互的免除ヲ協定シ居リ互ニ多大ノ便益ヲ  
受ケ居レリ就テハ此際濠洲聯邦トノ間ニモ出來得ル限り  
查證ノ相互的免除ヲ協定スルコト致シ度シ  
「香港、白耳義、瑞西、リヒテンスタイン、和蘭、獨逸、  
奧太利、佛蘭西、佛領印度支那、アルジェリア、伊太利、  
西班牙、(モロッコ)以外ノ植民地ヲ含ム)瑞典、丁抹、  
芬蘭、諾威、アイスランド、エストニア、智惠古、リス  
アニア、匈牙利」

四、濠洲聯邦ハ同國ニ於テ眞珠採取ニ從事スル本邦人勞働者  
ニ入國ヲ許可シ居レル處濠洲人雇主ト此等勞働者間ノ契  
約ニ依レハ此等勞働者ニ對スル待遇ニ付テハ人道上改善  
ヲ要求シ得ヘキ理由アリト思考セラル、例ヘハ解雇手當  
又ハ勞働者カ業務遂行中自己ノ過失ニ依ルコトナク負傷  
シ又ハ生命ヲ失ヒタル場合ニ於ケル待遇等ニ關シテハ他

ノ事業ニ關聯シ同様ノ場合生シタル際濠洲人労働者ニ對シ與ヘラルル待遇ニ比シ甚タシク不公平ナルモノアリ、

就テハ右ノ如キ契約改善方ニ關シ濠洲政府側ノ好意的考慮ヲ促スト共ニ適當ノ措置ヲ講セシムルコトト致度シ

(昭和六年五月二十五日井上總領事發本大臣宛公信第一

一〇號參照)

編注 別添第三号(日豪間來往簡案)、同第六号「日濠間無

線電信聯絡開設ニ關スル建議」および同第七号「世

界主要港ニ於ケル港費實額比較表」は省略した。

### 付 日印会商

434 昭和9年1月4日 沢田(節藏)日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

今次協定の形式問題に関する日印両代表部間

協議について

デリー 1月4日前發  
本省 1月4日後着

第二二六號(至急)

(今三日ノ彼我代表部員會合ノ際今次ノ協定ノ形式問題ニ言及シ我方ニ於テハ根本原則ニ關スル規定ハ之ヲ基本協定

中ニ收メ綿布「クオータ」印棉買付其ノ他爲替條項ノ如キ

特殊ノ事項ハ之ヲ附屬ノ「プロトコール」ノ類ニ收メ度キ

心組ナル旨述ヘタルニ印度側モ別ニ異議ヲ申立テサリシカ

「ドラフトティング」ハ日印兩代表部各々ニテ造り出來上リ

次第之ヲ突キ合シ妥協ノ上之ヲ本省ニ電報シ承認ヲ受ケテ

日印兩代表カ之ニ「イニシアル」スルコトシ度キ旨併セ

述ヘタルニ印度側モ之ニ贊成シ居リタル由ナリ就テハ右ノ段取ニテ進ミ度キ處「ドラフト」ハ本省ニテ作成サルル豫

定ナリヤ將又當方ニテ之ヲ爲シテ然ルヘキヤ

()貴電第一〇八號ニ關シ基本協定及附屬議定書共廢棄ノ豫告期ハ六ヶ月トシ約定ノ満期ニ之ヲ終了セシメントセハ滿期前六ヶ月ノ豫告ヲ要スルコトトシ差支無キヤ

右二點ニ關シ至急何分ノ儀御回電アリ度シ

英へ轉電セリ

435 昭和9年1月4日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

インド側より今次協定中には対英特惠容認規定を設けたいとの意向申出について

デリー 1月4日前發  
本省 1月4日後着

第二二九號(至急)

往電第二二八號ニ關シ

本三日兩代表部員會合ノ際印度側ハ從來對英特惠ニ關シ論議アリタル事實ニ鑑ミ今回ノ協定中最惠國待遇ノ規定ニ付英帝國ノ商品ノ待遇ニハ均霑シ得サル旨ノ趣旨ヲ明カニシ度キ意向ヲ一言シ居リタル趣ニテ右ハ條約文起草ニ際シ更